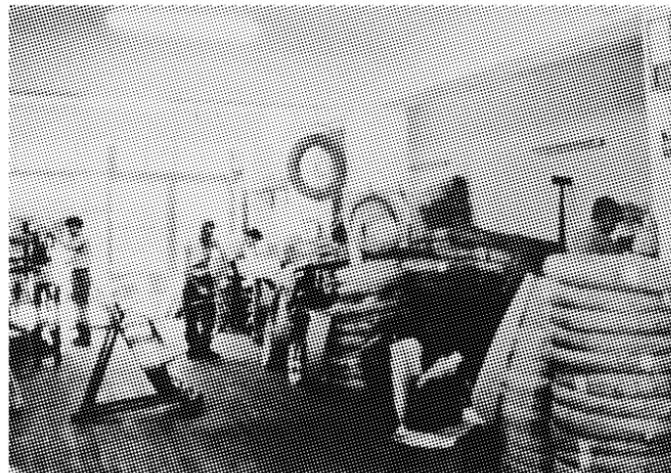


# 不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなぐ



当時の金網製造現場・西出町工場（1955年代）

「和をもって貴しとなす」。奥谷金網製作所（神戸市中央区）の奥谷智彦社長は創業時から変わらぬ理念を語る。創業者である曾祖父・奥谷儀三郎氏が掲げた経営方針だ。「同族経営ではとかく、お家騒動」などのめめ事が起こりがちだ。創業者は和の大切さを徹底し、教訓にした」（奥谷社長）と説明する。

一方、同族以外の社員採用も進め、特に近年は女性や外国人材を積極的に活用。人手不足が叫ばれる中、生産能力と技術力を維持・向上してきた。全社員

奥谷金網製作所（神戸市中央区）

## 「和」をもって技術引き継ぐ

約70人のうち、外国人比率は16%、女性比率は30%という。

同社は1895年に金網製作を開始。130年の歴史を有する。現在はパンチングメタル製造に向けた独自のプレス技術「スーパーパンク」のブラッシュアップや、新たなレーザーパンチング技術の開発を進めている。

奥谷社長は「私が社長になつてからは、創業者の理念を確実に引き継ぐことに加えて、技術向上を重視し注力してきた」と強調する。こうした技術面の取り組みに加え、インターネットの普及が商圏拡大の後押しとなった。「インターネットを活用した営業戦略は業界内では先駆けだと自負している」（同）と胸を張る。

現在は新たな取り組みとして、ストレーナーやレーザースクリーンなどの洗浄を想定する「マイクロナノバブル搭載洗浄装置」の開発を進めており、7月9日開催の「インターフェックスジャパン」で披露する予定だ。新製品開発で化粧品分野や医療分野の需要を喚起する。

「製造業の真骨頂は革新的な新技術の開発で顧客に喜んでもらえる製品を作ること。この事業スタイルは今後も変えることなく、こだわっていききたい」（同）と先を見据える。

【企業メモ】1895年（明治28）創業。パンチングメタル製造に特化し、小口径・多孔などの難加工技術を高めてきた。既存技術を磨いて用途を拡大する経営方針で、現在の売上高約13億円を10年後には30億円に拡大したいと考えた。